

弥生時代後期竪穴住居の研究（6）

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

今回は小田原市・南足柄市内における竪穴住居の集成と分析を行い、特徴の把握を行う。本稿では、上記分析対象地域を県西地域と呼称する。

今回の執筆・編集はプロジェクトメンバーによる検討結果に基づき渡辺、戸羽が行った。

県西地域における竪穴住居跡の特徴

帰属時期別住居軒数

帰属時期：県西地域で集成した竪穴住居跡は200軒である。これらの帰属時期は後期：117軒、庄内併行期：48軒、後期～古墳時代前期：19軒、不明：16軒である。分析の対象とした竪穴住居跡は後期～古墳時代前期および時期不明を除いた後期および庄内併行期に帰属するものとした。

住居形態など

平面形態：後期117軒のうち最も多いのは隅丸(長)方形49軒で、次いで楕円形30軒、(長)方形9軒、平面形態不明のものは29軒を数える。このうち短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）は3軒あり、いずれも小田原市千代南原遺跡第XIX地点で確認されており、11・17・20号住居跡が該当する。

庄内併行期48軒のうち最も多いのは隅丸(長)方形19軒で、次いで楕円形12軒、(長)方形が7軒、円形3軒、不正形1軒、平面形態不明のものは6軒を数える。このうち短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）は2軒あり、小田原市小田原城八幡山遺構群第3次調査29号住居、同市千代南原遺跡第XIX地点13号住居跡が該当する。

長短率：長短率は住居の長軸の数値を短軸の数値で除し、それに100を乗じたものである。値が大きくなれば、長軸短軸の差が大きくなり長方形に、小さくなれば正方形に近づき、最低の値は100となる（弥生時代研究プロジェクトチーム1995）。後期で算出できたのは15軒で、基本統計量は最大133.3、最小102.0、平均115.8、中央値115.2という値を示した。

庄内併行期で算出できたのは8軒で、基本統計量は最大145.2、最小100.0、平均118.8、中央値118.4という値を示した。

方形指数：後期では15軒で算出できた。方形指数20～30未満、50～60未満がそれぞれ3軒、10～20未満、40～50未満、80～90未満がそれぞれ2軒、0～10未満、30～40未満、70～80未満がそれぞれ1軒である。住居総数に対して方形指数を算出できた住居数は少ないが、10～30未満、40～60未満の間に集中する傾向がみられる。

庄内併行期では11軒で算出できた。方形指数0～10未満、30～40未満がそれぞれ3軒、60～70未満が2軒、20～30未満、50～60未満、70～80未満がそれぞれ1軒である。

後期同様に住居総数に対して方形指数を算出できた住居数は少ないが、方形指数0～10未満、30～40未満、60～70未満に集中する傾向がみられる。

主軸方位：北東方向（N-○°-E）および北西方向（N-○°-W）を0°～90°の間で角度を計測した後、10°ごとに住居軒数の集計を行ってグラフ化した。円が角度を、角度の軸が該当する住居の軒数を示している。南方向を主軸とする住居は東西90°を越える角度に変換して南方向に主軸を取る住居の方位を集計し、グラフ化した（例：S-50°-EであればN-130°-Eに変換して集計）。

後期において北東方向を主軸とする住居は11軒ある。その内訳は、60～70°未満4軒、0～10°未満3軒、30～40°未満2軒、50～60°未満、70～80°未満がそれぞれ1軒である。

北西方向を主軸とする住居は29軒ある。その内訳は、20～30°未満8軒、0～10°未満7軒、10～20°未満5軒、30～40°未満4軒、50～60°未満、80～90°未満がそれぞれ2軒である。

庄内併行期に北東方向を主軸とする住居は5軒ある。その内訳は、0～10°未満が2軒、30～40°未満、40～50°未満、70～80°未満がそれぞれ1軒である。

北西方向を主軸とする住居は17軒ある。その内訳は、20～30°未満、40～50°未満がそれぞれ4軒、0～10°未満が2軒、10～20°未満、30～40°未満、50～60°未満、70～80°未満がそれぞれ1軒である。北西方向を主軸とする住居で主軸方位が90°を超えるものがあり、30～140°未満に1軒確認されている。小田原市千代南原遺跡第XIX地点14号住居跡が該当する。

後期では北西方向を主軸とする住居が0～40°未満に集中し、庄内併行期においても北西方向を主軸とする住居が0～50°未満に集中する傾向が看守される。

主柱穴：住居跡での主柱穴本数が確認できたものについて集計した。なお、軒数には柱穴配置により、本数が推定可能な遺構を含む。後期では43軒中、主柱穴4本の住居29軒で約67%、次いで主柱穴0本の住居6軒で約14%、2本の住居が3軒で約7%、6本の住居が2軒で約5%、1・3・5本の住居が1軒ずつでそれぞれ約2%となる。主柱穴4本と0本の住居が大きな割合を占める。

庄内併行期では11軒中、主柱穴4本の住居が10軒で約91%、主柱穴0本の住居が1軒で約9%の割合を占める。

後期・庄内併行期ともに主柱穴4本もしくは0本の住居が主体となっている。

地形と立地

分布する地形面：後期では台地・丘陵の分布が主体であるが、住居軒数117軒のうち、2軒が低地で確認されている。小田原市久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点45号・48号住居跡が該当する。

庄内併行期においても台地・丘陵の分布が主体であるが、48軒中、2軒が低地で確認されている。小田原市西大友川窪遺跡4号住居址、同市久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点32号住居跡が該当する。

水系：後期では117軒中、山王川水系に42軒、下菊川水系に33軒、森戸川水系に32軒、塔台川水系に6軒、狩川水系に3軒となる。

庄内併行期では48軒中、早川水系に29軒、下菊川水系に15軒、山王川水系、森戸川水系、狩川水系、酒匂川水系にそれぞれ1軒となる。

後期では山王川水系、下菊川水系、森戸川水系に集中する傾向がみられる。庄内併行期になると山王川水系や森戸川水系の分布数が減少し、新たに早川水系に分布が集中する。下菊川水系においては後期と比較して分布数が減少するものの、庄内併行期にも継続する。

住居付帯施設

炉跡：後期では117軒中55軒で確認されている。その内訳は地床炉46軒、枕石炉9軒である。また、1つ

の住居跡に複数の炉跡が存在している例がある。千代南原遺跡第XIX地点11・15号住居、千代南原第XXIV地点1号住居跡、香沼屋敷跡第Ⅲ・Ⅳ地点第18号住居跡では1つの住居跡内に地床炉が2基確認されている。庄内併行期では48軒中23軒で確認されている。その内訳は地床炉22軒、枕石炉1軒である。また、1つの住居跡に複数の炉跡が存在している例がある。小田原城八幡山遺構群第2次調査YH1号竪穴住居址（第3次調査9号住居）、小田原城八幡山遺構群第3次調査6号住居、小田原城八幡山遺構群第7次調査YH6号竪穴住居址（第3次調査13a住居）では1つの住居跡内から2基の地床炉が、小田原城八幡山遺構群第3次調査29号住居では3基の地床炉が確認されている。

入口穴・梯子穴：入口穴は後期に3軒、庄内併行期に2軒で確認されている。梯子穴は確認されていない。庄内併行期に帰属する御茶屋通遺跡第2地点1号住居跡、千代南原遺跡第XIX地点13号住居跡ではそれぞれ入口穴が2基確認されている。

貯蔵穴：後期に4軒で確認されている。そのうち周堤を有するものは1軒あり、御茶屋通遺跡第3地点1号住居跡で確認されている。

庄内併行期では貯蔵穴が存在する事例は確認されなかった。

周溝：後期で全周するものは7軒（6.0%）、部分的に存在するものは26軒（22.2%）、存在しないものは76軒（65.0%）、不明なものは8軒（6.8%）である。

庄内併行期で全周するものは0軒（0%）、部分的に存在するものは5軒（10.4%）、存在しないものは30軒（62.5%）、不明なものは13軒（27.1%）である。

住居廃絶など

拡張：後期で5軒が確認されている。御茶屋通第3地点1・2号住居址、千代南原第V地点1号住居跡、千代南原遺跡第XVI地点3号住居跡、香沼屋敷跡第Ⅲ・Ⅳ地点17号住居跡が挙げられる。

庄内併行期では2軒確認されている。千代南原遺跡第XVI地点1・8号住居跡が挙げられる。

焼失：後期では4軒あり、千代東町遺跡第Ⅱ地点1・3号住居跡、千代南原遺跡第Ⅻ地点4号住居跡、久野下馬道上第Ⅲ地点45号住居跡が挙げられる。このうち炭化物や焼土などが検出されているのは3軒である。

庄内併行期では2軒確認されており、小田原城八幡山遺跡第2次調査YH2号竪穴住居址（第3次11号住居）、小田原城八幡山遺跡第3次調査1号住居が挙げられる。このうち炭化物や焼土などが検出されたものは存在しなかった。

出土遺物

遺物：出土遺物で主体となるのは土器類、石器類であるが、ここではそれ以外に特徴のある遺物を出土した住居跡と遺物名を列举する。

後期：小田原市千代南原遺跡第Ⅻ地点4号住居跡：鉄鎌、同遺跡6号住居跡：銅釦、同遺跡9号住居跡：ミニチュア・銅釦・銅環、同市千代南原遺跡第XX地点1号住居跡：黒曜石剥片、同市香沼屋敷跡第Ⅲ・Ⅳ地点10号住居址：小型壺、同市千代仲ノ町遺跡第Ⅳ地点2号住居址：土製円盤、同市千代吉添遺跡第Ⅰ（Ⅳ）地点6号竪穴住居跡：銅釦破片、同市久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点45号住居跡：魔性石鏃

庄内併行期：小田原市小田原城八幡山遺構群第7次調査YH6号竪穴住居址（第3次13a住居）：ミニチュア・銅鏃、同遺跡群第3次調査4号住居：ミニチュア、同遺跡群第3次調査19号住居：ミニチュア、同遺跡群第3次調査29号住居：ミニチュア、千代南原遺跡第XVI地点8号住居跡：鉄鏝

おわりに

今回は小田原市・南足柄市内における竪穴住居の集成と分析を行った。今後も神奈川県内における竪穴住居のデータベースの作成作業を継続する。県内各地域または市町村ごとでの分析を行ったのち、過去に行った集成のデータを含めて総合的な分析・比較を行う予定である。

参考文献

弥生時代研究プロジェクトチーム 1994「弥生時代竪穴住居の基礎的研究（1）」『神奈川の考古学の諸問題』神奈川の考古学第4集 神奈川県立埋蔵文化財センター

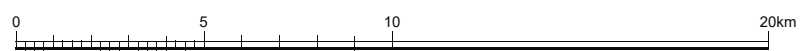
弥生時代研究プロジェクトチーム 1995「弥生時代竪穴住居の基礎的研究（2）」『神奈川の考古学の諸問題』神奈川の考古学第5集 神奈川県立埋蔵文化財センター

第1表 対象遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	軒数	刊行団体	刊行年	出典
1	小田原市	御組長屋遺跡第Ⅱ地点	1	都市計画道路小田原早川検改良工事遺跡発掘調査団	2001	『御組長屋遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ地点発掘調査報告書』
		小田原城跡八幡山遺構群Ⅱ	9	財団法人かながわ考古学財団	2004	『小田原城跡八幡山遺構群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告161
2		小田原城跡八幡山遺構群Ⅲ	26	財団法人かながわ考古学財団	2006	『小田原城跡八幡山遺構群Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告201
		小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ	4	財団法人かながわ考古学財団	2010	『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』かながわ考古学財団調査報告254
3		香沼屋敷遺跡第Ⅲ・Ⅳ地点	33	小田原市教育委員会	2004	『香沼屋敷遺跡第Ⅲ・Ⅳ地点』小田原市文化財調査報告書第121集
4		愛宕山遺跡第Ⅱ地点	8	株式会社 盤古堂	2010	『愛宕山遺跡第Ⅱ地点』
5		久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点	3	玉川文化財研究所	2013	『久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書』
6		西大友川窪遺跡	1	小田原市教育委員会	2003	『西大友川窪遺跡』小田原市文化財調査報告書第112集
7		永塚北畑遺跡第Ⅱ地点	1	小田原市教育委員会	2002	『永塚北畑遺跡第Ⅱ地点 永塚長森遺跡第Ⅰ地点』小田原市文化財調査報告書第104集
8		永塚長森遺跡第Ⅰ地点	7	小田原市教育委員会	2002	『永塚北畑遺跡第Ⅱ地点 永塚長森遺跡第Ⅰ地点』小田原市文化財調査報告書第104集
		千代南原遺跡第Ⅴ地点	2	小田原市教育委員会	2004	『千代南原遺跡第Ⅴ地点』小田原市文化財調査報告書第119集
		千代南原遺跡第ⅩⅡ地点	9	株式会社 盤古堂	2007	『千代南原遺跡第ⅩⅡ地点』
9		千代南原遺跡第ⅩⅤ・ⅩⅨ地点	16	株式会社 盤古堂	2008	『千代南原遺跡第ⅩⅤ・千代南原ⅩⅨ地点』
		千代南原遺跡第ⅩⅥ・ⅩⅦ・ⅩⅩ地点	23	小田原市教育委員会	2010	『千代南原遺跡第ⅩⅥ・ⅩⅦ・ⅩⅩ地点』小田原市文化財調査報告書第154集
		千代南原遺跡第ⅩⅩⅠ・ⅩⅩⅡ・ⅩⅩⅣ地点	9	小田原市教育委員会	2013	『千代南原遺跡第ⅩⅩⅠ・ⅩⅩⅡ・ⅩⅩⅣ地点』小田原市文化財調査報告書第164集
10		千代仲ノ町遺跡第Ⅳ地点	5	小田原市教育委員会	1999	『千代仲ノ町遺跡第Ⅳ地点』小田原市文化財調査報告書第69集
11		千代吉添遺跡第Ⅰ～Ⅳ地点	9	小田原市教育委員会	2006	『千代吉添遺跡第Ⅰ～Ⅳ地点』小田原市文化財調査報告書第137集
		千代吉添遺跡第Ⅴ地点	7	小田原市教育委員会	2014	『千代吉添遺跡第Ⅴ地点』小田原市文化財調査報告書第166集
12		千代東町遺跡第Ⅱ地点	3	小田原市教育委員会	2004	『千代東町遺跡第Ⅱ地点』小田原市文化財調査報告書第106集
13		高田北之前遺跡第Ⅱ地点	9	高田北之前遺跡第Ⅱ地点発掘調査団	2001	『高田北之前遺跡第Ⅱ地点』
14		別掘十二天遺跡第Ⅱ地点	4	小田原市教育委員会	2013	『別掘十二天遺跡第Ⅱ地点』小田原市文化財調査報告書第163集
		別掘十二天遺跡第Ⅴ・Ⅵ地点	1	鎌倉市遺跡調査会	2012	『別掘十二天遺跡第Ⅴ地点・第Ⅵ地点発掘調査報告書』
15		前川右近屋敷遺跡	6	小田原市教育委員会	2000	『前川右近屋敷遺跡』小田原市文化財調査報告書第83集
16	南足柄市	御茶屋通遺跡第2地点	2	御茶屋通遺跡第2地点発掘調査団	1999	『御茶屋通遺跡第2地点発掘調査報告書』
		御茶屋通遺跡第3地点	2	株式会社 盤古堂	2012	『上ノ山遺跡群御茶屋通遺跡第3地点』

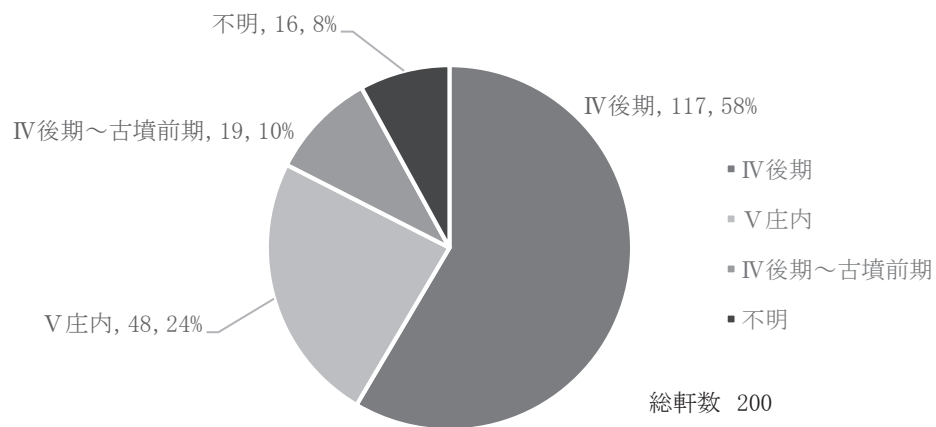


- | | | |
|------|--------------|-------------|
| 小田原市 | 1 御組長屋遺跡 | 12 千代東町遺跡 |
| | 2 小田原城八幡山遺構群 | 13 高田北之前遺跡 |
| | 3 香沼屋敷遺跡 | 14 別堀十二天遺跡 |
| | 4 愛宕山遺跡 | 15 前川右近屋敷遺跡 |
| | 5 久野下馬道上遺跡 | |
| | 6 西大友川窪遺跡 | 南足柄市 |
| | 7 永塚北畑遺跡 | 16 御茶屋通遺跡 |
| | 8 永塚長森遺跡 | |
| | 9 千代南原遺跡 | |
| | 10 千代仲ノ町遺跡 | |
| | 11 千代吉添遺跡 | |

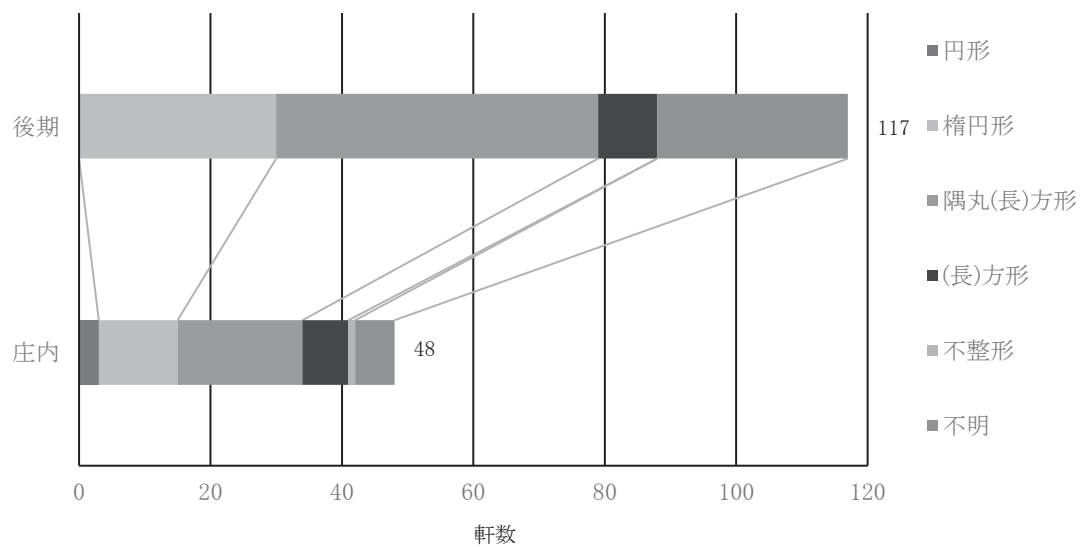


※地形分類は国土庁土地局昭和50年発行10万分の1土地分類図を元に作図

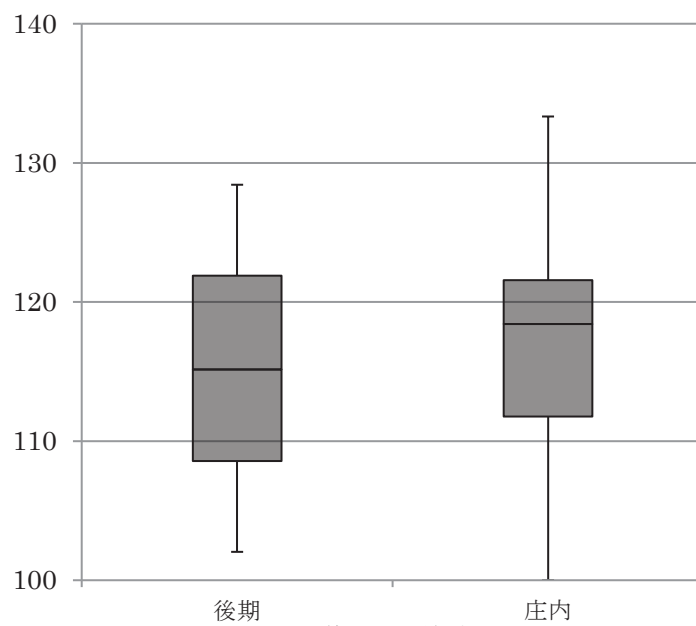
第1図 対象遺跡分布図



第2図 時期別住居軒数

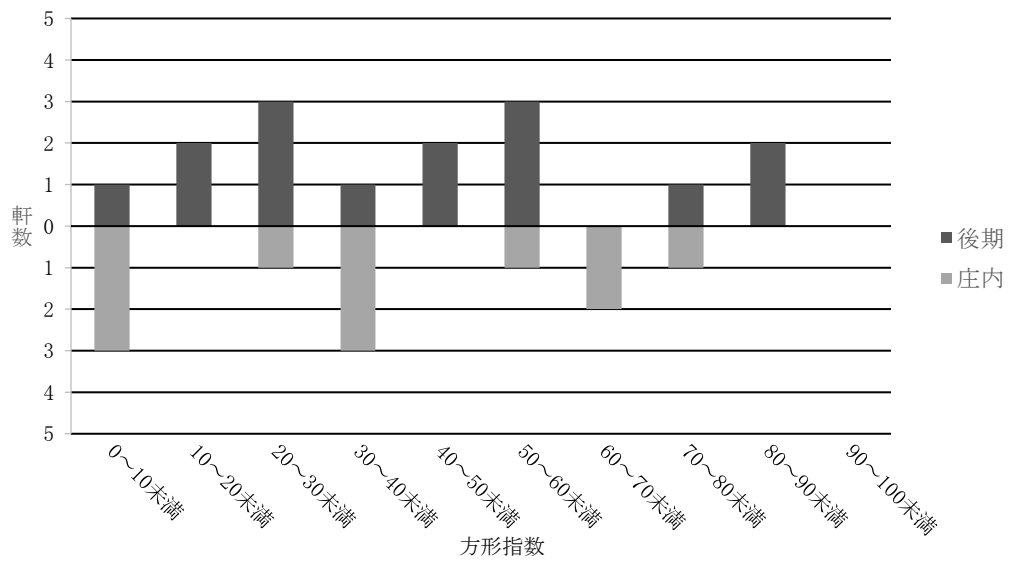


第3図 住居平面形態

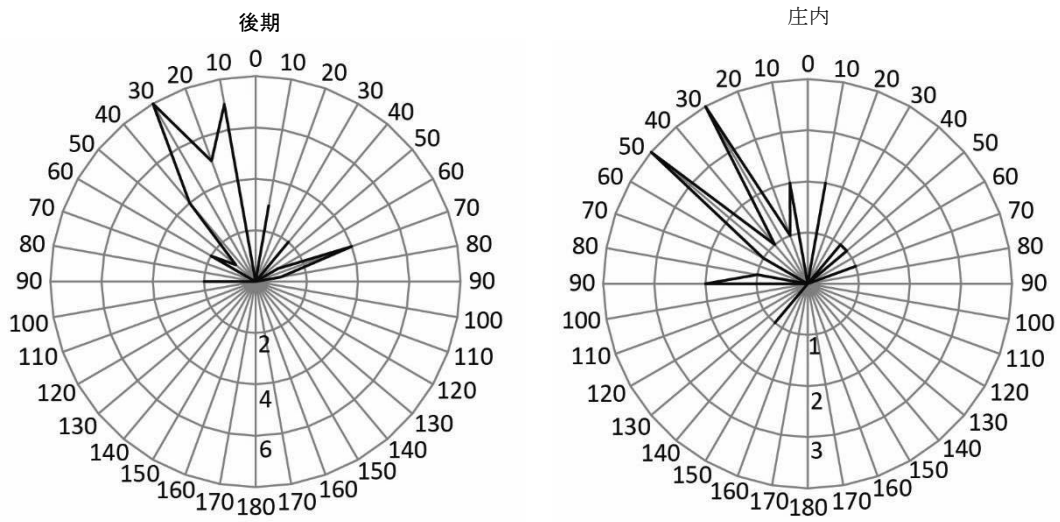


第4図 長短率

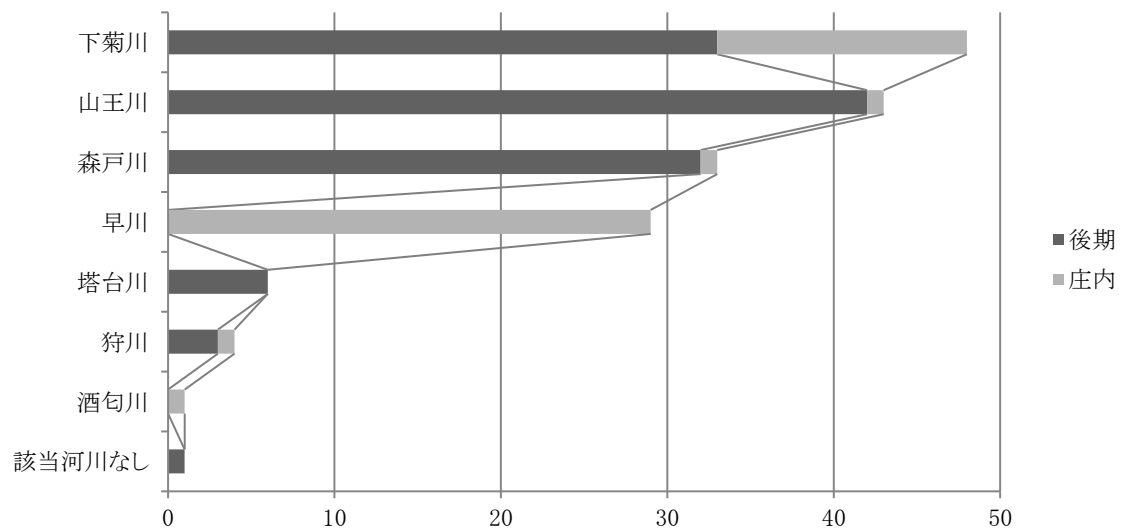
弥生時代後期竪穴住居の研究（6）



第5図 方形指数分布



第6図 主軸方位分布



第7図 水系別住居軒数

第3表 炉跡形態

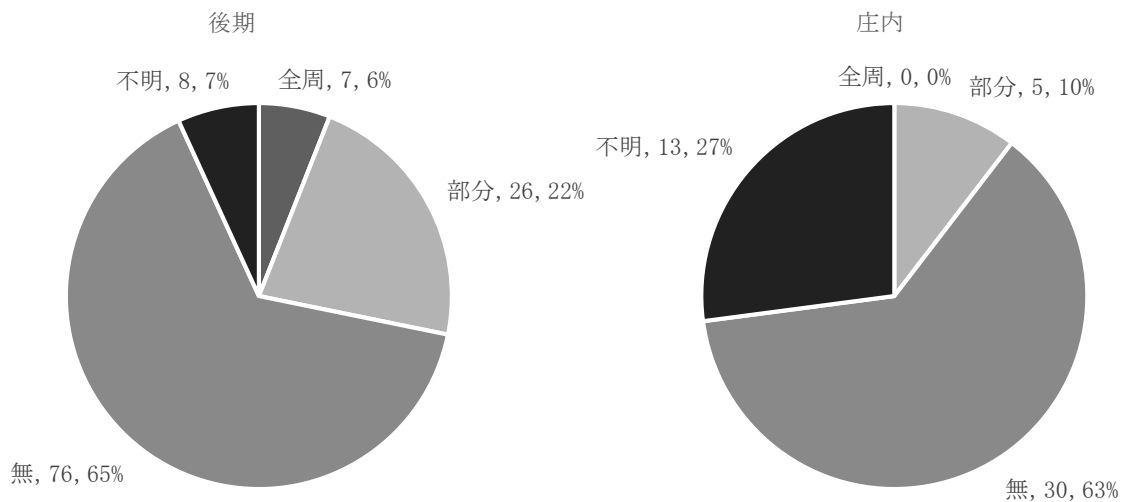
後期	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	地床炉	46	83.6	39.3
	枕石炉	9	16.4	7.7
	小計	55	100.0	47.0

庄内	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	地床炉	22	95.7	45.8
	枕石炉	1	4.3	2.1
	小計	23	100.0	47.9

第4表 主柱穴本数

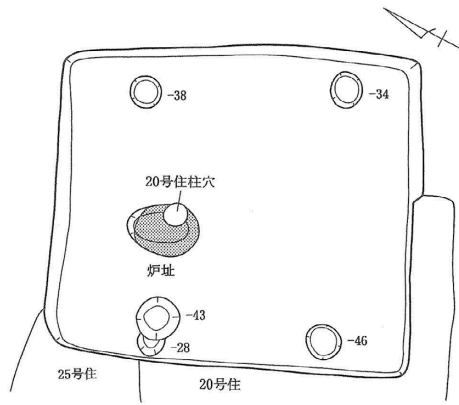
後期	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	0本	6	14.0	5.1
	1本	1	2.3	0.9
	2本	3	7.0	2.6
	3本	1	2.3	0.9
	4本	29	67.4	24.8
	5本	1	2.3	0.9
	6本	2	4.7	1.7
	小計	43	100.0	

庄内	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	0本	1	9.1	2.1
	4本	10	90.9	20.8
	小計	11	100.0	

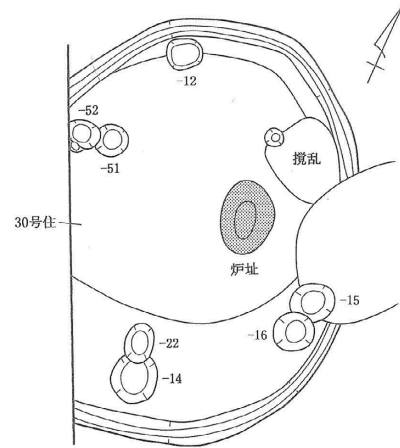


第8図 周溝の有無

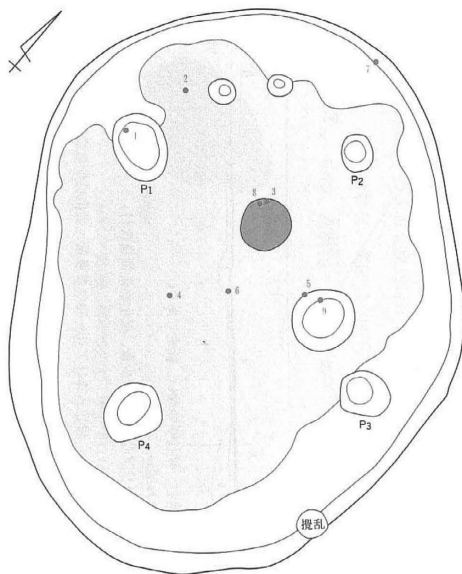
香沼屋敷遺跡 21号住居址(Ⅳ期)



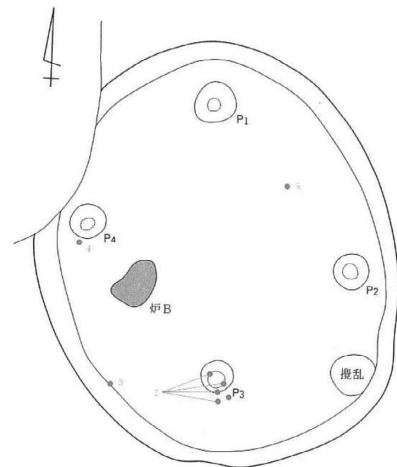
香沼屋敷遺跡 15号住居址(Ⅳ期)



小田原城八幡山以降群第3次 25号住居(V期)



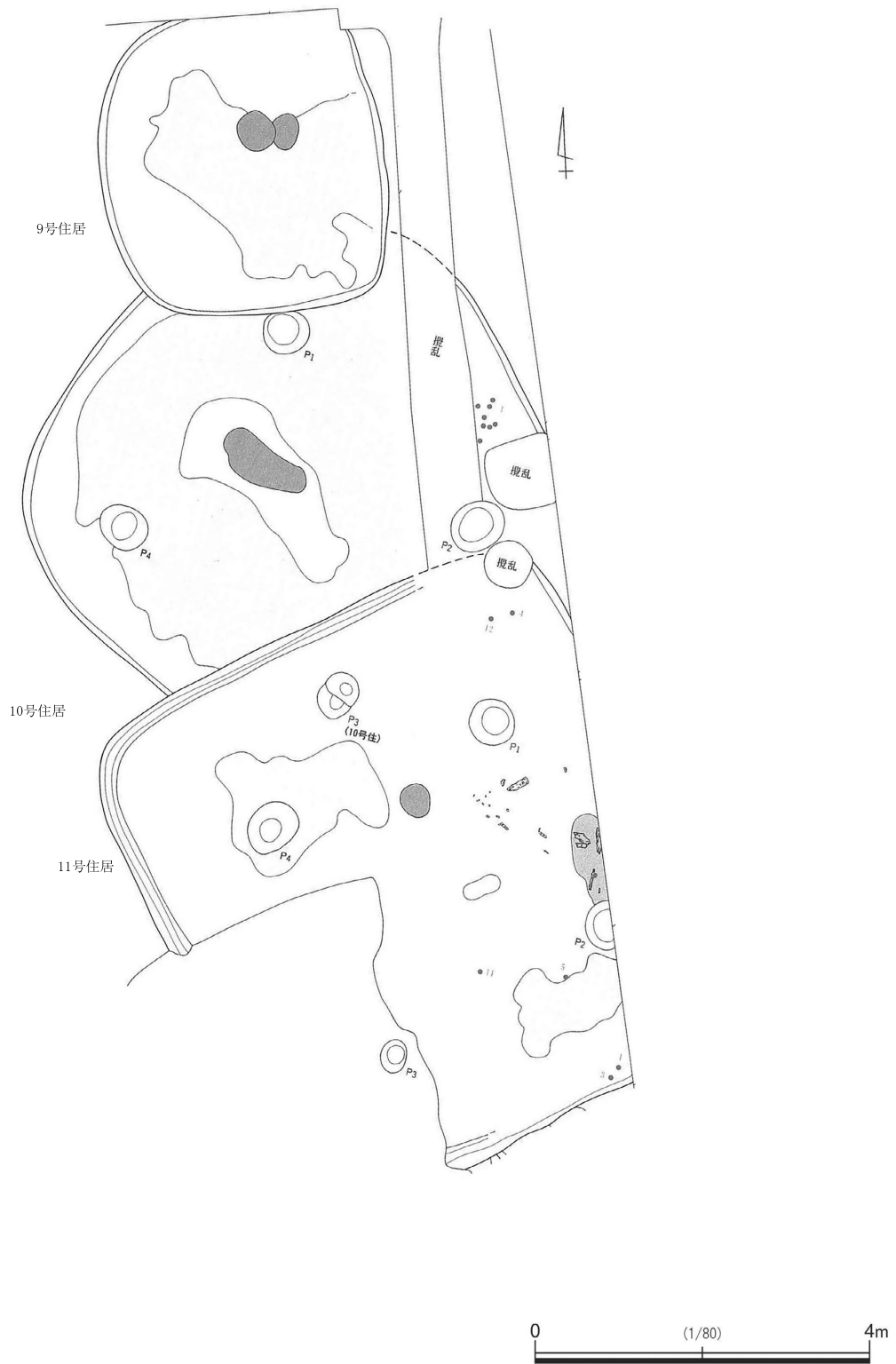
小田原城八幡山以降群第3次 29号住居2面(V期)



0 (1/80) 4m

第9図 竪穴住居跡平面図(1)

小田原城八幡山遺跡群第3次 9～11号住居(V期)



第10図 竪穴住居跡平面図(2)